JCHO湯河原新聞 VOL.1 7月

～便秘薬の使い分け～

便秘には様々な原因が存在します。
まずその原因を調査し、原因を取り除く事を優先しますが、難しい場合は便秘薬を投与します。
治療には原因に合わせたお薬を使い分ける必要があります。

1. 水分で便を膨らませ、柔らかくする薬

水分不足で硬くなっている便に水分を引き込み、便を柔らかくします。
他のお薬との飲み合わせや、高齢者・腎臓の機能が悪い方には注意が必要です。

酸化マグネシウム（酸化マグネシウム®、マグミット®）モビコール®、モニラック®など

2. 腸液を分泌させ便に水分を与えて、柔らかくする薬

小腸に作用して水分の分泌を増やし、便を柔らかくします。妊婦さんは服用できません。

アミティーザ®、リンゼス®

3. 胆汁酸を増やして便通を促す薬

腹痛が起きやすいといった特徴があります。服用してから通常5時間程度で効き始めます。

グーフィス®

4. 大腸を刺激し、動きを良くする薬

大腸を刺激して動きを活発にし、便を出します。
長期間使用すると大腸が刺激に慣れ、徐々に効果が落ちてきます。
服用してから通常8～12時間で効き始めます。

センノシド（プルゼニド®）、センナ（アローゼン®）、ピコスルファート（ラキソベロン®）、
新レシカルボン坐剤®、テレミンソフト®など

5. プロバイオティクス（乳酸菌,ビフィズス菌等）

大腸内の善玉菌を摂取する事で排便回数を増やします。

ラックビー®、ミヤBM®、ビオフェルミン®、ビオスリー®など

6. 漢方薬（大黄甘草湯,麻子仁丸,潤腸湯,桃核承気湯,防風通聖散等）

大腸の運動を活発にします。体質や症状に合った漢方を服用する事が重要です。

＊それぞれのお薬についての詳細は当院薬剤師にご相談下さい。

JCHO湯河原病院